

オプションで「納棺の儀」をしていただきました。私は勘違いして、最後のお別れの際に棺に入れる物を、納棺の儀に持参していました。机の上にそれらを並べていると、女性の納棺師さんが口紅と頬紅を見て、「これを使って死化粧をさせていただきますでしょうか。」と言われ、やっていただきました。すると、まるで自宅にいた5年4ヶ月前の様な顔になりました。納棺の儀の発注を受けた時、「故人が生前使用していた化粧品などで死化粧をすることもできる」旨の一言があれば、ご遺族はきっと喜ばれると思います。今回私が感じた様に。

私は初めて喪主挨拶をすることになり、一人泊まったお通夜の間、床についても挨拶の内容や話す順番を頭の中で考えていると、2時から5時の3時間しか眠ることができませんでした。おかげで何とか思った通りの挨拶ができました。その様子を霊柩車の運転手さんが聞いてくださっており、霊柩車に乗った私に「とても素晴らしい挨拶でした。」と言ってくださいました。私は『運転手さんは、車の所で待機されている。』と思っていたので、意外だったのと、お褒めにあずかり大変嬉しかったです。

「あしあと帳」も良かったと思います。私が最初に一言書いて、通夜式の後に親族にも書いてもらいました。しかし、紙面の3分の1位はまだ空白でした。床について喪主挨拶を考えていると、ふと故人との思い出が蘇り、起きて「焼香・偲りん・拝礼・母の顔を拝む・あしあと帳に記入」の工程を何回も行いました。おかげで母との有意義な時間を共にすることができました。数えてみると、あしあと帳には全部で21個の思い出が。その内私の思い出が10個もありました。そして、余白がほとんど無い「あしあと帳」を棺に入れることができました。

通夜料理と仕上げ料理も、美味しかったと皆から言われました。

最後に、初めて喪主を務めるにあたり、やる気半分不安半分で、「何も問題なく出来て当たり前」と思っていました。しかし、御社の各ポジションの方々の熱心な対応により、「当たり前」を上回る成果を得ることができたと確信しております。感謝に堪えません。誠にありがとうございました。